

令和5年神奈川県
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 の 心 理 学

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …



(濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) …



- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の観察法に関する記述のうち、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 日常生活を観察する方法を自然的観察法という。
- B 調査の目的に従って、意図的に場面を設定し、そこで起こる行動を観察する方法を実験的観察法という。
- C 保育者などが対象児と関わる中で観察を行う方法を参加的観察法という。
- D 複数の観察者を組織して観察を行う方法を組織的観察法という。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	○	×	×
4	×	○	×	×
5	×	×	×	○

問2 次の【Ⅰ群】の能力と【Ⅱ群】のOECD（経済協力開発機構）が挙げる3つの社会情動的スキルを結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 自己抑制
- B 自尊心
- C 社交性
- D 思いやり
- E 自信

【Ⅱ群】

- ア 目標の達成
- イ 他者との協働
- ウ 情動の制御

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | ア | ウ | イ | ア |
| 2 | ア | ウ | イ | イ | ウ |
| 3 | イ | ア | イ | ウ | ア |
| 4 | ウ | ア | イ | イ | ウ |
| 5 | ウ | ウ | ウ | イ | ア |

問3 次の乳幼児の人との関わりに関連する現象A～Eを、一般的な発達における発現の順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 社会的微笑
- B 生理的微笑
- C 指さし
- D 延滞模倣
- E 人見知り

(組み合わせ)

- 1 A→B→C→D→E
- 2 A→B→D→E→C
- 3 B→A→D→E→C
- 4 B→A→E→C→D
- 5 B→A→E→D→C

問4 次のA～Eの記述のうち、児童期から青年期の発達に関して適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 学童期後期になると仲間関係が大きく広がり、ギャング・グループを形成すると考えられていたが、近年子どもを取り巻く状況の変化により、ギャング・グループの形成が難しくなっている。
- B 思春期になると、共通の興味や関心、内面的な類似性を持つチャム・グループを形成する。
- C 第二性徴は思春期開始の指標とされてきたが、近年は発達加速現象により、第二性徴の開始の低年齢化が見られる。
- D 青年期後期になるとチャム・グループより更に同質性・凝集性の高いピア・グループが形成される。
- E エリクソン(Erikson, E. H.)によれば青年期の発達課題は「アイデンティティの確立」だが、「早期完了」として危機を経験する者もいる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	○	×	○	○
3	○	○	×	×	○
4	×	○	○	×	×
5	×	×	×	○	×

問5 次のA～Eの心身症に関する記述のうち、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 神経性無食欲症・神経性大食症はやせているのにもかかわらず、体重増加への恐怖をもつ。思春期以降の女性にのみ発症する。
- B 夜驚症は睡眠中、突然起き上がりパニックのように叫び声を上げたり、泣き出したりする。3歳から9歳の頃に発症して、自然に消失することが多い。
- C 夜尿症・昼間遺尿症は、5歳を過ぎても、布団や服の中で排尿し、週2回以上3か月以上にわたり続くもののうち、心理的な原因によって生じるものをいう。
- D 選択性緘黙は言語や知能に遅れはなく、特定の場面や特定の人物に対して話すことができないことが1か月以上続いている状態である。
- E 起立性調節障害は、立ち上がるときに脳血流の低下が起こり、低血圧や頻脈、立ちくらみ、めまい、失神などの症状が現れる。思春期に起こりやすい。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	×
2	○	×	○	○	×
3	×	○	×	○	○
4	×	×	○	×	○
5	×	×	×	○	×

問6 次の文は、ピアジェ (Piaget, J.) の均衡化理論に関する記述である。(A) ～ (D) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

(A) とは、外界を認識し、そこに働きかける知識や行動の枠組みである。既存の (A) を使って、新たに外界認識を進めることを (B) という。(C) とは、既存の (A) では外界の認識や問題解決がうまくいかない場合に、その (A) を修正して環境に適応した理解や行動を新たに獲得することをいう。(B) と (C) を繰り返すことで、環境に適応した (A) を再構築する過程を (D) と呼ぶ。

【語群】

ア	シェマ	イ	アニミズム	ウ	同化	エ	脱中心化	オ	調節
カ	均衡化	キ	保存	ク	操作				

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | オ | カ |
| 2 | ア | カ | オ | ウ |
| 3 | ア | キ | ク | エ |
| 4 | イ | ウ | オ | カ |
| 5 | イ | キ | ク | ウ |

問7 次の【Ⅰ群】の記述と最も関連のある【Ⅱ群】の用語を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 「おやつがほしい」と言うところを「おやちゅがほちい」と言う。
- B 夏休みの思い出についてクラスみんなに伝えるように話す。
- C 犬だけでなく動物一般を「わんわん」と呼ぶ。
- D 独り言を言いながら遊ぶ。
- E 「わんわんいた」と言う。

【Ⅱ群】

ア 喃語	イ 幼児音	ウ ジャーゴン	エ 一次的事ことば
オ 二次的事ことば	カ 過度拡張	キ 過度制限	ク 語彙爆発
ケ 自己中心語	コ 内言	サ 電文体発話	シ 文語体

(組み合わせ)

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 1 | ア | エ | キ | ケ | サ |
| 2 | イ | エ | ク | コ | シ |
| 3 | イ | オ | カ | ケ | サ |
| 4 | ウ | エ | ク | コ | シ |
| 5 | ウ | オ | カ | ケ | サ |

問8 次の文は、小学校スタートカリキュラムの基本的な考え方に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 児童要録を基にクラスの児童の平均的な姿を想定し、カリキュラムをデザインする。
- B 児童の発達の特徴を踏まえて、時間割や学習活動を工夫する。
- C 小学校の各教科目の独立性を尊重する。
- D 安心して児童自らが学びを広げていけるような学習環境を整える。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	○
3	○	×	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

問9 次の【Ⅰ群】の養育者の特徴に対応する愛着の型と【Ⅱ群】の用語を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 抱っこなどの身体接触が多く、子どもの欲求や状態の変化に敏感に気付くなど情緒的な反応性が高く、子どもに合わせた対応ができる。
- B 憂うつな気分になりやすいなど精神的に不安定であり、子どもをたたく、無視するといった不適切な養育をしている。
- C 抱っこなど身体接触が少なく、情緒的な応答性に乏しく、子どもが泣いて近づくとそれを嫌がり、ますます離れていく傾向がある。
- D 子どもの行動・感情を適切に調整するのが苦手であり、子どもの要求を理解する際に焦点がずれたり、対応するタイミングが遅れたり、養育者の気分や都合に合わせた対応が多い。

【Ⅱ群】

- ア 回避型
- イ 安定型
- ウ アンビバレント（矛盾）型
- エ 無方向・無秩序型

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ウ | エ |
| 2 | イ | ア | ウ | エ |
| 3 | イ | ア | エ | ウ |
| 4 | イ | エ | ア | ウ |
| 5 | イ | エ | ウ | ア |

問10 次の文は、注意欠如・多動性障害（ADHD）に関する記述である。適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 何事にも全く集中できず、不注意な間違いが多い。
- B じっとしているのが苦手で落ち着きがない。
- C 思いついた行動を予測したり考えたりすることなく、直ちに実行してしまう。
- D 大人から注意されたり、友達から敬遠されたりすることで、自尊心の低下や自信の欠如、抑うつ気分といった二次障害を引き起こしやすい。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	○	○	×

問11 次の文は、チックに関する記述である。(A)～(C)の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

チックとは(A 突発的、緩慢、反復性)の運動または発声である。トゥレット症候群は、運動チックと音声チックの(B 両方)が起こり、(C 1年)以上持続しているチックのことである。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	○
2	×	○	○
3	×	○	×
4	×	×	○
5	×	×	×

問12 次のうち、障害のある子どもの保育として不適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

- A 障害のない子どもの保護者に対しても、子どもが互いに育ち合う姿を通して、障害等についての理解が深まるようにするとともに、地域で共に生きる意識をもつことができるように配慮する。
- B 保育所や児童発達支援センター等の関係機関で行われてきた支援は、プライバシー保護の観点から、小学校に伝達しないよう留意する。
- C 障害は一樣であることから、障害のある子どもの発達してきた過程や心身の状態を保育士が把握する必要はない。
- D 障害のある子どもの保育にあたっては、専門的な知識や経験を有する地域の児童発達支援センター・児童発達支援事業所・児童発達支援を行う医療機関などの関係機関と連携する。
- E 障害や発達上の課題のある子どもが、他の子どもと共に成功する体験を重ね、子ども同士が落ち着いた雰囲気の中で育ち合えるようにするための工夫が必要である。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 B E

問13 次の文は、発達理論や子ども観に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 ピアジェ (Piaget, J.) は、子どもの自然に成熟する能力と、それをを用いて積極的に環境に働きかける様子に注目し、これらが相互に影響し合うことによって認知発達していくと考えた。
- 2 フロイト (Freud, S.) は、発達過程を、口唇期、肛門期、エディプス期、潜伏期、性器期の5段階に分けて説明した。
- 3 エリクソン (Erikson, E.H.) は、「社会と個人が相互に影響し合うことによって、人格の形成やその発展が行われること」を観点に発達について考えた。
- 4 チョムスキー (Chomsky, N.A.) は、愛着理論の礎を確立し、生涯にわたって獲得する安定的な精神的・社会的発達について明らかにした。
- 5 アリエス (Aries, P.) は、その著書の中で、子どもを大人から区別する特殊性を意識しない時代や文化があったと述べた。

問14 次の文は、社会情動的発達に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 周囲の大人が否定的な言葉がけをすることで子どもの自己肯定感が育まれる。
- B 安全基地が内面化されたものを、インターナルワーキングモデル（内的ワーキングモデル）と呼ぶ。
- C 同年代の他者として友達と一緒に遊ぶようになると、自分の気持ちを主張したり、場合によっては自分の気持ちを抑制したりすることが求められ、自己主張と自己抑制が必要であることを学ぶ。
- D 母親的存在と子どもとの間で形成される親密な絆のことをホスピタリズムと呼ぶ。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	×	○
2	×	○	○	×
3	×	○	×	○
4	×	×	×	○
5	×	×	×	×

問15 次のうち、原始反射として誤ったものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 口唇探索反射（口唇反射）
- B 自動歩行
- C 随意運動
- D 社会的微笑
- E モロー反射

（組み合わせ）

- 1 A E
- 2 B C
- 3 B D
- 4 C D
- 5 C E

問16 次の文は、ファンツ（Fantz, R.L.）の選好注視法の実験についての記述である。

（ A ）～（ D ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

ファンツ（Fantz, R.L.）は、生後数日～6か月までの乳児が好む図形パターンを調べる実験を行った。その結果、乳児は（ A ）な図形よりは（ B ）な図形を、特に（ C ）に近い図形を選んで注視する傾向があることがわかった。この傾向は生後間もない新生児の頃からみられることから、新生児の人に対する志向性は（ D ）と考えられる。

（組み合わせ）

- | | A | B | C | D |
|---|----|----|-----|-----|
| 1 | 単純 | 複雑 | 無地 | 後天的 |
| 2 | 単純 | 複雑 | 人の顔 | 後天的 |
| 3 | 複雑 | 単純 | 無地 | 後天的 |
| 4 | 単純 | 複雑 | 無地 | 生得的 |
| 5 | 単純 | 複雑 | 人の顔 | 生得的 |

問17 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

I 君（4歳、男児）は、小さい頃から絵本を読むのが大好きで、暇さえあれば絵本を読むことに没頭していた。ある日、保育所で保育士が I 君を含むクラスの子ども達に「自由遊びの時間に絵本を読んだらご褒美にシールをあげるよ」と言い、実際にシールをご褒美としてあげた。絵本を読むとご褒美シールがもらえるようになってからしばらくして、I 君は自由遊びの時間以外は絵本を読もうとしなくなった。

【設問】

I 君の事例に関する説明として、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 保育士がご褒美のシールの話をする前は、I 君は内発的動機づけにより絵本を読んでいた。
- B 「ご褒美のシールがもらえるから絵本を読む」のは、外発的動機づけによるものである。
- C I 君が自由遊びの時間以外に絵本を読もうとしなくなったのは、シールがご褒美として魅力的でなかったからである。
- D I 君が自由遊びの時間以外に絵本を読もうとしなくなったという現象は、アンダーマニング効果で説明できる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	×	○	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	×

問18 次のA～Dの愛着に関わる障害についての記述のうち、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 反応性愛着障害の特徴は、素直な感情表現が困難であり、素直に甘えたり頼ったりすることが難しいことである。
- B 分離不安は正常な発達段階の一つであり、4週間以上続いても心配はなく、生活に支障が生じることはない。
- C 心的外傷後ストレス障害（PTSD）とは、生死にかかわるような危険な体験をしたり、目撃したりすることで強い恐怖を感じ、心の傷となって何度も思い出されて苦しむ状態である。
- D 反抗挑戦性障害とは、大人や年上の人に対して反抗的、拒絶的、攻撃的、挑戦的な行動パターンをとり、6か月以上継続するものを指す。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	×

問19 次の文は、青年期の発達に関する記述である。(A) ~ (C) の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

(A サリヴァン(Sullivan, H.S.)) のライフサイクル論によれば、青年期は学童期と成人期をつなぐ段階と位置づけられ、心理社会的発達課題は(B アイデンティティの確立)であるとされている。自己探究をしている期間は、青年期であっても就職や経済的自立などの社会的責任や義務が先送りされる時期であり、この時期を(C モラトリアム(心理社会的モラトリアム)) と呼ぶ。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	○
4	○	×	×
5	×	○	○

問20 次の文は、子どもの理解に関する記述である。(A) ~ (C) の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

カウンセラーが人間同士の基本的な信頼関係を築くためにとる態度の基礎は、(A カウンセリングマインド) と呼ばれ、保育士が子どもへの理解を深めようとする時にも大切な態度である。このうち、子どものありのままの姿を尊重し、肯定的に受け入れる姿勢のことを(B 純粋性)という。また、子どもの内面をあたかも自分のことのように感じることを(C 傾聴)という。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	○
2	○	○	×
3	○	×	○
4	○	×	×
5	×	×	×